

京都大学附属図書館

KYOTO UNIVERSITY LIBRARY



1985



沿革の概要

〈創設時の経緯〉

京都大学附属図書館の歴史は、明治30年6月18日勅令第209号をもって京都帝国大学が創立され、同日、勅令第211号をもって公布された京都帝国大学官制によって附属図書館の設置が定められたことに始まる。

すなわち、附属図書館は本学の開学とともに発足し、ただちに理工科大学教室の一部に仮図書館を設け、購入図書並びに文部省、東京帝国大学、第三高等学校及び帝国図書館等から移管された図書の整理を始めたのである。そして、明治31年7月、附属図書館最初の建築として煉瓦造2階建の書庫（第1書庫、文学部書庫として昭和59年8月まで使用）を建設、ついで翌32年7月、閲覧室及び事務室が竣工、同年12月11日、事務室をこの建物に移し、新営の閲覧室において閲覧業務を開始した。爾来、附属図書館は、この日をもって創立の日としている。

その後、明治36年4月煉瓦造3階建の書庫（第2書庫、昭和59年3月まで使用）を、明治40年5月に事務室の増築を行ない、こえて大正7年3月、煉瓦造平屋建を別個に建築し、さらに大正14年7月鉄筋コンクリート造4階建の書庫（第3書庫、昭和59年3月まで使用）を増築した。また、蔵書の充実と閲覧者の増加に伴い、昭和8年には、当時の法経新館2階に第2閲覧室を開設した。

〈旧館〉

昭和11年1月24日午前10時50分頃、第1閲覧室の天井より出火し、設立当初建築した木造閲覧室を焼失した。このため閲覧業務は第2閲覧室と本部（時計台）2階大ホールを使用して行なわれた。

この頃、すでに新図書館建設の計画がまとめられており、地上3階、地下1階、書庫7層、総面積延約7,260㎡の規模とし、各室の施設、設備についても、図書館の機能を十分に果し得るよう考慮し設計されていた。しかし、戦時中の諸般の事情により着工延期となり、昭和15年1月に至り漸く着工されることになったが、激化する戦局と大戦への拡大によって、当初の構想も地上2階までにとどめられ、鉄筋コンクリートの外部は完成したものの、内装、外装とも未仕上げのまま放置され終戦をむかえた。

戦後の最悪の諸条件のもとで、とりあえず閲覧室及び事務室など緊急を要するものの補修が行なわれ、昭和23年3月、閲覧室及び事務室をこの新館（旧図書館）に移した。こえて昭和29年、書庫部分が完成した。これにより、図書館の延面積は5,406㎡となった。

〈図書館活動の発展〉

このように図書館施設の拡充がはかられる一方で、資料の充実にも力が注がれ、昭和32年12月に国際地球観測年事業の一つとして地磁気世界資料室、昭和34年4月にはアメリカ研究センター図書

室、また、昭和40年6月には、アメリカのエール大学のHRAF（Human Relations Area Files）資料配布館となり、本館にHRAF室が開設された。

一方、図書館利用の拡大により、昭和38年12月に開架図書室、昭和43年4月2階に新聞閲覧室を開設し、同年7月には館内を改装して新たに1階に第2閲覧室と雑誌室を設けた。さらに夜間開館時間を昭和54年から午後9時まで延長した。

蔵書も年々増加の一途を辿り、昭和53年には所蔵数は50万冊を超えた（因みに、全学の蔵書数は、このとき、約400万冊、年間増加冊数は約10万冊）。また、同年より文部省から全国共同利用図書購入費の配賦をうけ、人文・社会科学系の大型コレクションも蔵置するようになった。

図書館機能の中心は、図書館資料を有効に、かつ多くの利用者の利用に供することにある。そのための重要な仕事の一つは図書目録の整備であるが、本館は創立以来、全学受入図書の総合目録を完備しており、その他のサービス業務でも、昭和33年に文献複写サービスを開始したのをはじめ、文献資料の国際交換サービスも、その要請に積極的に応じるとともに、昭和43年には学内各部局の協力を得て学内図書相互利用手続きを簡略化した。さらに図書館活動の活発化と利用者とのコミュニケーションをはかるため、昭和39年9月から館報『静脩』を刊行し、現在に至っている。

数えるに至っている。

〈新館建設の経緯〉

昭和40年代に入ると、学術研究の急速な発展と学術情報流通メディアの長足の進歩とによって、図書館業務のあり方について、新たな見直しが重要な課題となるに至った。附属図書館では、昭和41年4月、商議会のもとに運営改善特別委員会を設け、図書館運営の近代化策をまとめ、さらに昭和46年3月に京都大学ライブラリー・システムの試案及び図書館業務の機械化についての考え方をまとめた。

この頃から図書館増改築について検討がはじめられ、昭和49年12月、運営改善に関する委員会を設置、当面の図書館の改善と将来を展望した図書館づくりについて検討、また、昭和53年7月には、この委員会の構想をふまえて、具体的な業務上のサービスとそれに伴う諸施設について検討するため、施設・サービス委員会を発足させ、附属図書館新営構想の策定に入った。

その後、新館建設の実現には曲折があったが、昭和55年10月、全面建替えが関係当局によって認められ、昭和56年1月、商議会は「京都大学附属図書館新営計画」を決定、同年12月新営工事がはじめられ、昭和58年10月20日、地上4階、地下2階、総面積14,000㎡の図書館が竣工、昭和59年4月開館を迎えた。

歴代館長

氏名	就任	退任
島 文次郎	明治32. 11. 6	明治43. 7. 25
石川 一	43. 7. 25	44. 10. 1
新村 出	44. 10. 1	昭和11. 10. 19
羽田 亨	昭和11. 10. 19	13. 11. 25
本庄 栄治郎	14. 1. 17	17. 7. 28
沢 鴻 久 孝	17. 9. 1	22. 5. 31
原 随 園	22. 5. 31	24. 11. 8
泉 井 久之助	24. 11. 8	32. 7. 15
田 中 周 友	32. 7. 15	38. 7. 14
(事務取扱) 足 利 惇 氏	38. 7. 15	38. 7. 25
堀 江 保 蔵	38. 7. 25	41. 7. 24
穴 戸 圭 一	41. 7. 25	46. 3. 31
平 岡 武 夫	46. 4. 1	48. 3. 31
林 良 平	48. 4. 1	57. 3. 31
高 村 仁 一	57. 4. 1	59. 4. 1
西 原 宏	59. 4. 2	

新しい図書館における機能整備の概要

昭和58年10月、京都大学に待望の新しい図書館が完成し、翌59年4月9日全面開館した。

このたびの新館建設によって、各種の施設・設備が飛躍的に拡充・整備されたことにより、この際これまでの図書館業務全般の見直しを行い、さまざまな工夫と施策によって活発な図書館活動を展開することが期待されている。

以下は、このような観点から、新しい図書館がその果すべき役割・機能の面で、具体的にどのような改善充実をはかるとしているか、その概要の紹介である。

I 図書館資料の整備

附属図書館は、学術情報と文献資料の提供を通じて、利用者の学習・調査・研究活動を支援することを任務としている。したがって、あらゆる分野の利用者のために、図書その他の資料の充実をはかり、利用者の多様な情報入手の要求に応えていくことが基本的に重要である。このため次の点について改善に努める。

1. 学習図書の充実

新刊書を中心に人文・社会科学、自然科学の全分野にわたる基本図書並びに教養に関する図書の収書に努め、質・量ともに充実した学習資料センター館としての機能の充実をはかる。また、特色のある収書に努める一方、調和のとれた蔵書構成を目的として、図書館業務の機械化によってその利用実態を把握することに努め、これを選書にフィードバックする。

2. 研究資料の充実

新館では、研究・調査活動の援助を重視し、例えば、参考図書室、雑誌閲覧室、特殊資料室の整備をはじめ、「京都大学バックナンバーセンター」を設置するなど、研究資料を全学的な利用に供するための施策をすすめている。

(1) 高額参考図書の整備

図書館の重要な機能の一つに、所在情報、書誌情報等を提供する参考調査機能がある。新館1階の参考図書室には、25,000冊(旧館では8,000冊)を排架し、56席の閲覧座席を用意している。

しかも、近年における書誌・目録・抄録・索引など二次資料等の高額化によって、部局図書館(室)では、その収集、維持が困難になっている状況に

かんがみ、例えば *Chemical Abstracts Collective Index* や国際連合、国際機関、主要国統計資料など的高額参考図書を、附属図書館で体系的継続的に収書し、広く研究者の利用に供するとともに、オンライン情報検索機能の強化をはかる。

(2) 学術雑誌等の整備

雑誌閲覧室には、新着雑誌を中心にこれまで附属図書館が購入してきた内外の学術雑誌、一般雑誌約600タイトルのほか、新たに工学部の協力を得て、工学部化学6教室購入の雑誌及び工学部共通雑誌合わせて約300タイトルを排架し、そのバックナンバーは、地下書庫に収納し、広く学内の研究者の利用に供する。これにより附属図書館が、いわば化学系雑誌のセンター館的な役割を担うことになる。

3. 視聴覚資料の整備

新館では、AV (audio-visual) ホールを設け、本学教官が行う視聴覚資料による教育・研究活動に供し、また、AVブースは、個人視聴に供することにしている。このため、例えば、カセットテープやレコードなどの録音資料、ビデオテープ、ビデオディスク、フィルムなどの映像資料の収集及び機器の充実を図る。

II 図書館の利用面における改善

図書館にとって重要なことは、利用者が使いやすく、しかも自由な雰囲気、漂う思索の場となる環境づくりをすることと、図書館資料への接近、利用を促すための方策を講じることである。このため次の点について改善に努める。

1. 自動入退館システムの導入

教職員・学生等利用者に図書館利用証 (IDカード) を交付し、これによりできるだけ利用部門を開放し、また、IDカードとブックディテクションを組み合わせた入退館チェックシステムにより、利用者は自由に入出入りすることができるようにした。

2. 自由接架 (フリーアクセス) 方式の採用

新館では、従来のような書架と閲覧席を分離し、書架を見る際に、そのつど手続きを必要とする安全開架方式を改め、開架閲覧室、参考図書室、雑誌閲覧室などでは、書架と閲覧席を隣接させ、利用者が自由に書架に接し、探し出した図書を閲覧

席で読むことができる自由接架方式とした。

開架図書は、冊数の制限もなく自由に閲覧席で閲覧することができる。

3. サービス・ポイントの集中化

利用部門のスペースを大幅に拡大したが、サービス・ポイントの集中化をはかり、メインカウンターで図書の貸出・返却、参考調査、文献複写の依頼等、図書館利用の諸手続きがすべて行えるようにした。

4. 開架図書の充実

自由接架方式を採用したことに伴い、次のとおり開架冊数の倍増をはかった。どのような資料を排架するかは重要な問題であり、これまでの利用実態をふまえて検討していく。

単行本	70,000冊	(旧館	28,000冊)
参考図書	25,000冊	("	8,000冊)
雑誌	900誌	("	300誌)

5. 閲覧座席等の増加

建物面積が約3倍に増大したことにより、閲覧関係の各室を整備し、開架閲覧室、自由閲覧室、参考図書室、雑誌閲覧室、貴重図書閲覧室、新聞ラウンジのほか、新たに特殊資料室、研究個室、A Vブース、対面朗読室、共同研究室、調査室及びA Vホールが設けられ、座席数は約1,000席となった。

6. 夜間開館の業務拡張

これまでの夜間開館では、閲覧業務のみであったが、新館では貸出・返却、入庫検索等利用サービス業務を拡張し、図書館サービスの向上に努める。

7. 書庫内図書の検索

開架閲覧室、参考図書室、雑誌閲覧室等での自由閲覧に加えて、書庫内の図書についても、入庫検索できる利用者の範囲をひろげ、事実上、開架方式に等しい図書の検索ができるよう改めた。

8. 貸出・返却処理の迅速・簡易化

開架図書の著しい増加と自由接架方式の採用により、利用者が増大し、閲覧・貸出件数は従前の数倍になった。これに対応するため開館時(昭和59年4月)から貸出業務の電算化を実施している。

なお、目録検索・情報検索など、図書館業務全般についての機械処理は、昭和60年4月から本格化する予定であったが、全国的規模でのシステム開発に歩調を合わせる必要から、やや遅れている。

III 情報入手・提供機能の充実

学術情報のシステム化がすすむなかで、附属図書館は学内における情報センターとしての役割はいうまでもなく、全国的な学術情報システムにおける地域センター館としての役割をも果たすことが要請されている。

1. 情報処理センター機能の充実

附属図書館は、学内及び近畿北部地区国立大学附属図書館の情報処理センター館としての機能を果たす。このため、図書館業務の機械化処理を推進する。

2. 研究情報の交流促進

学生、研究者の情報要求に対処するため、単に文献複写サービスにとどまらず図書館間相互協力体制の充実をはかり国内はもちろんのこと、諸外国の主要図書館に所蔵されている資料の調査、入手さらに研究者との学術情報の交流、コミュニケーションを支援する。

IV 保存機能の充実

新館には、地下1階に書庫及び貴重書庫、地下2階には電動式集密書架を配置した集密書庫を設置して保存機能にも重点を置いた図書館づくりを目指している。この面での整備状況は次のとおりである。

1. 保存書庫(バックナンバーセンター)の設置

新館における書庫スペースは、全体で約105万冊をこえる収蔵が可能である。このうち約40万冊分のスペースは、全学的な雑誌のバックナンバーセンターとし、研究図書館機能の充実を期している。第1次計画により、12部局から約11万冊を収納し、昭和60年1月から利用に供している。

2. 貴重図書の保存

貴重書庫に恒温・恒湿・防火の設備を完備し、全学的見地に立った貴重図書の保管計画をたて、中央館の所蔵する貴重図書のほか、部局の要望に応じて、その貴重図書を所蔵する。

主要施設・設備の概要

1階

(1) 玄関

建物正面に約13.5m間口の玄関ポーチを設け、床は外装と同じレンガタイル張りとし、軒天井は、耐候性鋼板曲げ加工、酸化安定化処理底目地張りとしている。前面の道路から歩いて約30歩で、自動ドアを取りつけた風除室(20㎡)を経て、メインフロアに導く。この道程は、図書館の雰囲気づくりに大切なものとする。

なお、玄関に入る手前左側にベンチを設け、学生諸君の語らいの場としている。

(2) エントランス・ホール

エントランス・ホール(133㎡)には、2階までの「吹抜け」を設けた。これにより、館内に入ったとき、天井からの圧迫感をうけることもなく、広く明るい感じをうけること、「吹抜け」から2階の開架閲覧室の空間的な一体感を生み出す心理的效果がある。

(3) 自動入退館システム

自動入退館装置は、エントランス・ホールと出納ホールとの境界に、入口2通路、出口2通路の入退館ゲートを設けている。入館ゲートは通常はロックされており、IDカードを挿入すると装置がコードを読みとり、バーが内側に開く機構になっている。入館ゲートを入れれば、1、2階の利用部門は自由に利用することができる。

退館ゲートは入館ゲートとは逆に、通常は開放されているが、図書の貸出手続きの済んでいない図書をうっかり帯出しようとした場合、バーがロックされ、ブザーが鳴る仕組みとなっている。

(4) 出納ホール

出納ホール(153㎡)には、図書館利用のすべての窓口であるメインカウンターを設けている。メインカウンターには、①本館の利用をはじめ、全学の図書館に関する質問などを受付けるインフォメーションデスク、②図書の貸出・返却・貸出予約などを端末機によって処理するデスク、③入庫検索、貴重図書の閲覧申し込み、研究個室その他の館内諸施設の利用申し込みを受付けるデスク、④文献複写、相互利用に関する申し込みを受付けるデスク、⑤あらゆる参考調査業務を受持つレファレンスデスクの5つのコーナーがある。

このメインカウンターでは、電話などによる文献調査及び端末機による情報検索の依頼にも応じられるようにして、利用者と文献資料を効果的に結びつける役目を果たす。

(5) 参考図書室

参考図書室(378㎡)には、全学的に共通利用される辞書・事典・索引・書誌の類及び2次資料など各種参考図書約3万冊を配架し、約70席の閲覧席を設けた。特に本館では研究図書館としての機能を果たすため、高額参考図書の整備に重点を置いている。

(6) 雑誌閲覧室

雑誌閲覧室(359㎡)には、学術雑誌約600誌を配架し、約40席の閲覧席を設けた。また、化学系の雑誌等約300誌も集中排架している。

(7) 自由閲覧席

自由閲覧室(171㎡)には、約100席の閲覧席が用意され、自由に利用できる自習室としている。参考図書室、雑誌閲覧室との区画がないので、これらの座席と合わせ、1階には約210席が用意されている。

(8) 貴重図書閲覧室

貴重図書閲覧室(27㎡)には、現在6席を用意し、古書・漢籍などの貴重図書を内外の研究者の利用に供する。

(9) 新聞ラウンジ

新聞ラウンジ(50㎡)には、約10種の代表的な日刊紙や英字新聞などを備え、20席の閲覧席(ソファー)を置いている。

(10) カード目録室

カード目録室(244㎡)には、本学のすべての蔵書の目録を備えている。

2階

(1) 開架閲覧室

開架閲覧室(1,685㎡)には、新刊書を中心に、人文、社会科学、自然科学など、すべての分野にわたる学習・研究用の基本図書及び教養図書約7万冊を配架し、利用者が直接書架から必要とする図書を自由に選択し、冊数の制限もなく、閲覧席で読むことができるよう、従来の安全開架方式を改め、自由接架方式を採用した。

この開架閲覧室は、面積も広く、利用度も高いエリアであるので、照明の方法、書架配置、閲覧席の種類と配置について特段の配慮を行い、静かな、読書と思索の場にふさわしい雰囲気をもつよう、木製品を主体に心安まる読書環境づくりに気を配っている。特に閲覧席は、自然採光を考慮して窓際に約600席を設け、書架は、その内側に配置している。

(2) ロビーラウンジ

エントランス・ホールから階段をのぼったところに、ロビーラウンジを設け、ソファー32人分を配置して、休憩や、新聞、文庫本、雑誌などを寛いで閲覧できるようにしている。

3階

(1) 研究個室

中央図書館の所蔵資料を使って研究する大学院生以上の研究者の利用に供する研究個室13ブース(12㎡2室、7㎡4室、6㎡7室)を設けている。

(2) 共同研究室

中央図書館の所蔵資料を使用するグループスタディなどのため、20名規模の共同研究室(56㎡)を2室設けている。

(3) 特殊資料室

特殊資料室(439㎡)では、HRAF(Human Relations Area Files)資料、政府刊行物などの特殊コレクションを配架し、また、マイクロ資料などの特殊形態の資料を備え、それを読み取るための機器を備えたマイクロリーダー席を含む閲覧席28席を設けている。

(4) AVホール

AVホール(206㎡、映写準備室33㎡)は、視聴覚による教育・研究活動や研修会などに使用されるもので、フィルム、ビデオテープ、録音テープ、レコードなど各種の視聴覚資料の映写・再生機器などの設備を導入し、これを使った研究会、講演会などを開催できるようにしている。

座席118席。

(5) AVブース

AVブース(68㎡)では、語学テープ(L・L機能を備えたもの)や音声テープ、ビデオテープなどを個人視聴できる機器を備えたブース18席を設けている。

(6) 展示ホール

本学が所蔵する貴重図書その他特色ある蔵書を定期的に、または随時に展示するためのホール(188㎡)を設けている。また、本学または附属図書館が学外の公的機関などと共催し、あるいは協賛するものに使用することがある。

(7) 教官談話室

図書館を利用する教官の小会合、談話あるいは休憩、教官相互のコミュニケーション、分野をこえた専門の交流の場として、教官談話室(65㎡)を設けている。

4階

(1) コンピュータ関係各室

図書館情報処理センターとしての機能を果たすため、コンピュータ機器室(120㎡)、オペレーター室(48㎡)及びコンピュータ事務室(55㎡)の3室を設置している。

昭和60年4月以降は専用の中型コンピュータ(FACOM M-340)により、全国的な中枢センターと連結し、学内及び地域の図書館とオンラインで結んだ活動に備えている。

(2) 地域共同利用室

地域センター館としての役割を果たすため、地域共同利用室(117㎡)を設けている。ここでは地域(近畿北部地区六大学)の図書館とのコンピュータネットワーク形成に関する打合せや、データ処理作業が行われる。

地下1階

(1) 書庫

積層式の書庫(1,412㎡)で約25万冊を配架して貸出に応じる。また、学内研究者が簡単な手続きで開架図書と同じように、直接検索できるようにしている。なお、将来、この書庫を2層にする計画である。

(2) 貴重書庫

新館には、37種168冊の重要文化財を含む貴重書、稀覯本など約5万冊を収納する貴重書庫(293㎡)がある。専用の空調設備で常に温度や湿度を一定に保つとともに、天井、壁面、床を全て板張りにしている。特に側壁は、板を固定させない落とし込み構造とし、結露を防ぐ仕組みを施して、湿度の変化に柔軟に応じる「校倉造り」になったものとなっている。また、防火、防虫にも万全を期している。

地下2階

(1) 集密書庫

地下2階の書庫(2,007㎡)は、全て電動式集密書架を配置し、約75万冊の収容を可能にしている。うち約40万冊分は「京都大学バックナンバーセンター」に充当、研究資料の全学的な管理と共同利用に供する。



東北面



南西面



IF 正面玄関



IF エントランスホール



1F メインカウンター



1F 参考図書室



1F 新聞ラウンジ



1F 雑誌閲覧室



1. 2F 吹抜け



2F ロビーラウンジ



2F 開架閲覧席北側



3F 研究個室



3F 特殊資料室 (HRAF 資料)



3F AVホール



4F 大会議室



4F 中庭



BI 書庫

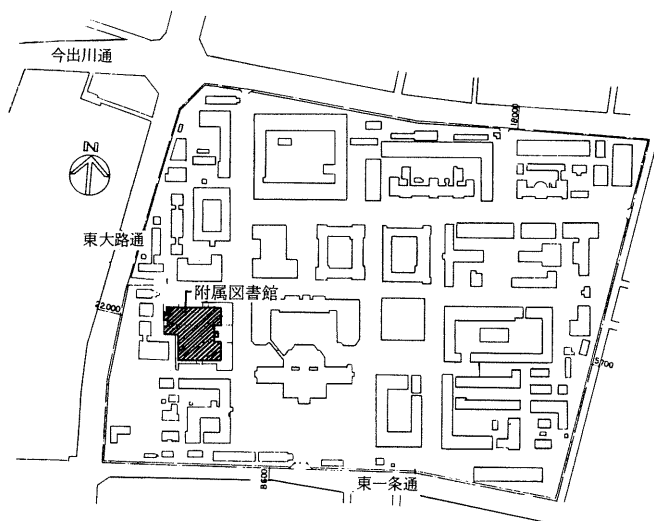
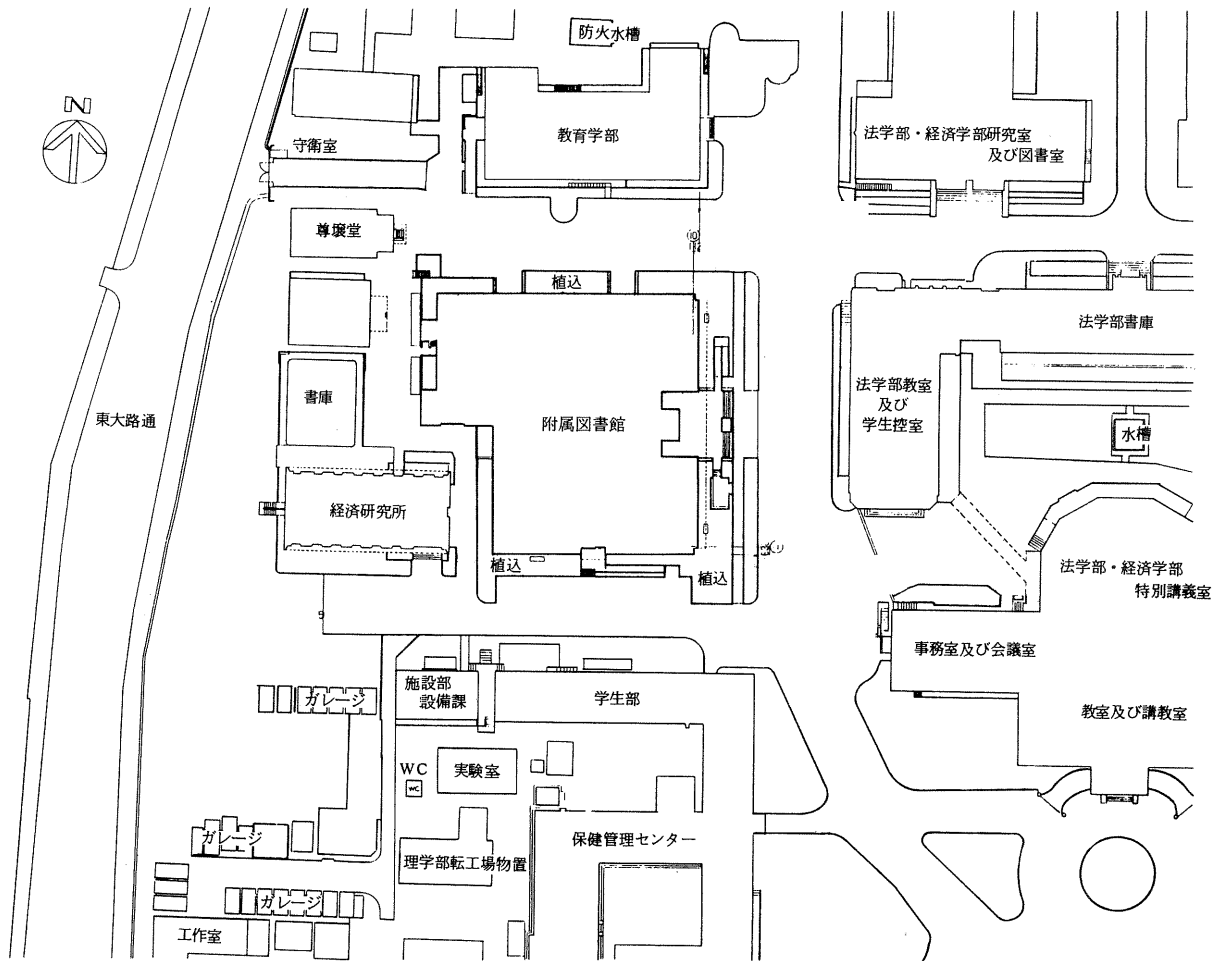


B1 貴重書庫



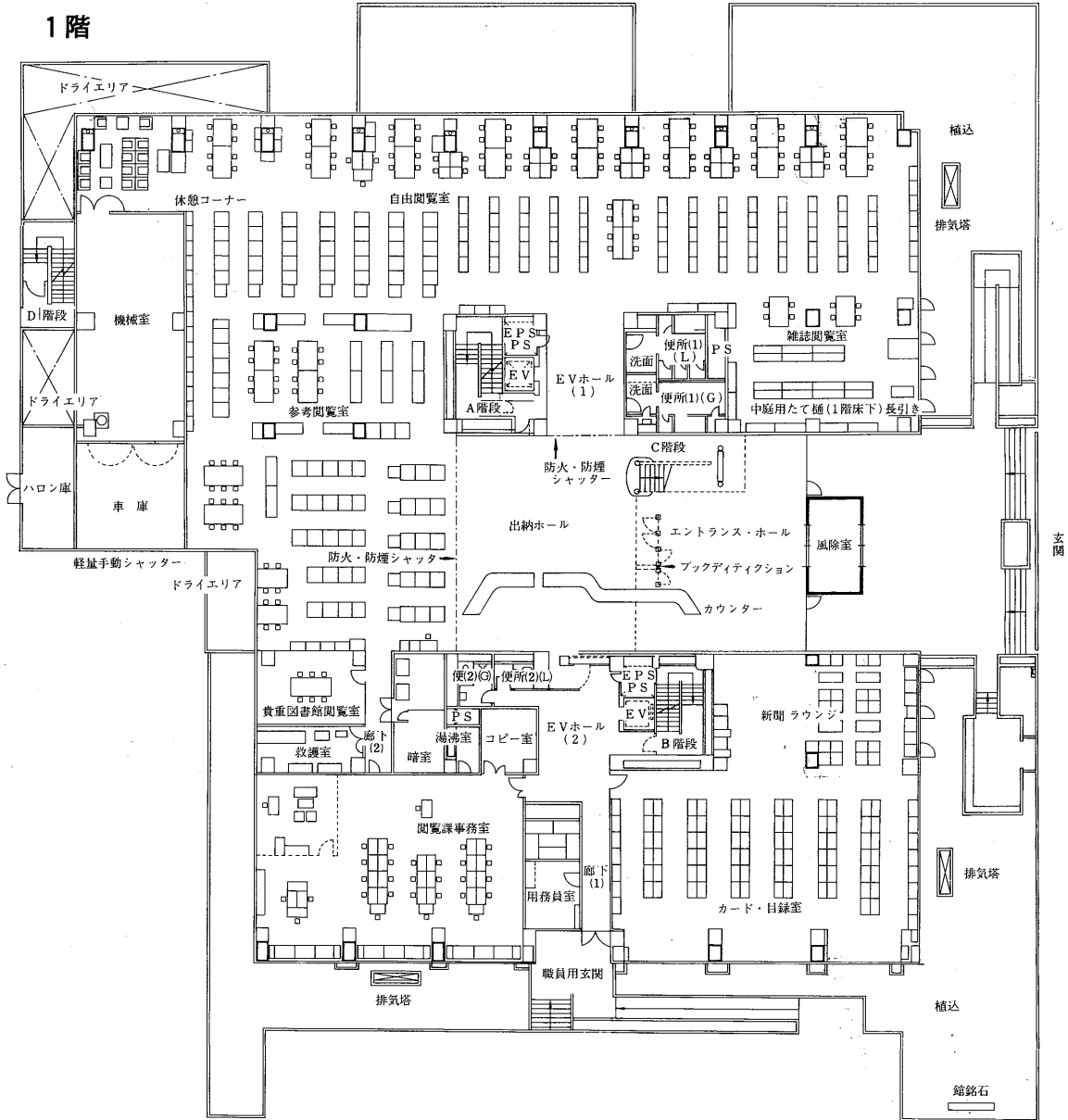
B2 集密書庫

配置図

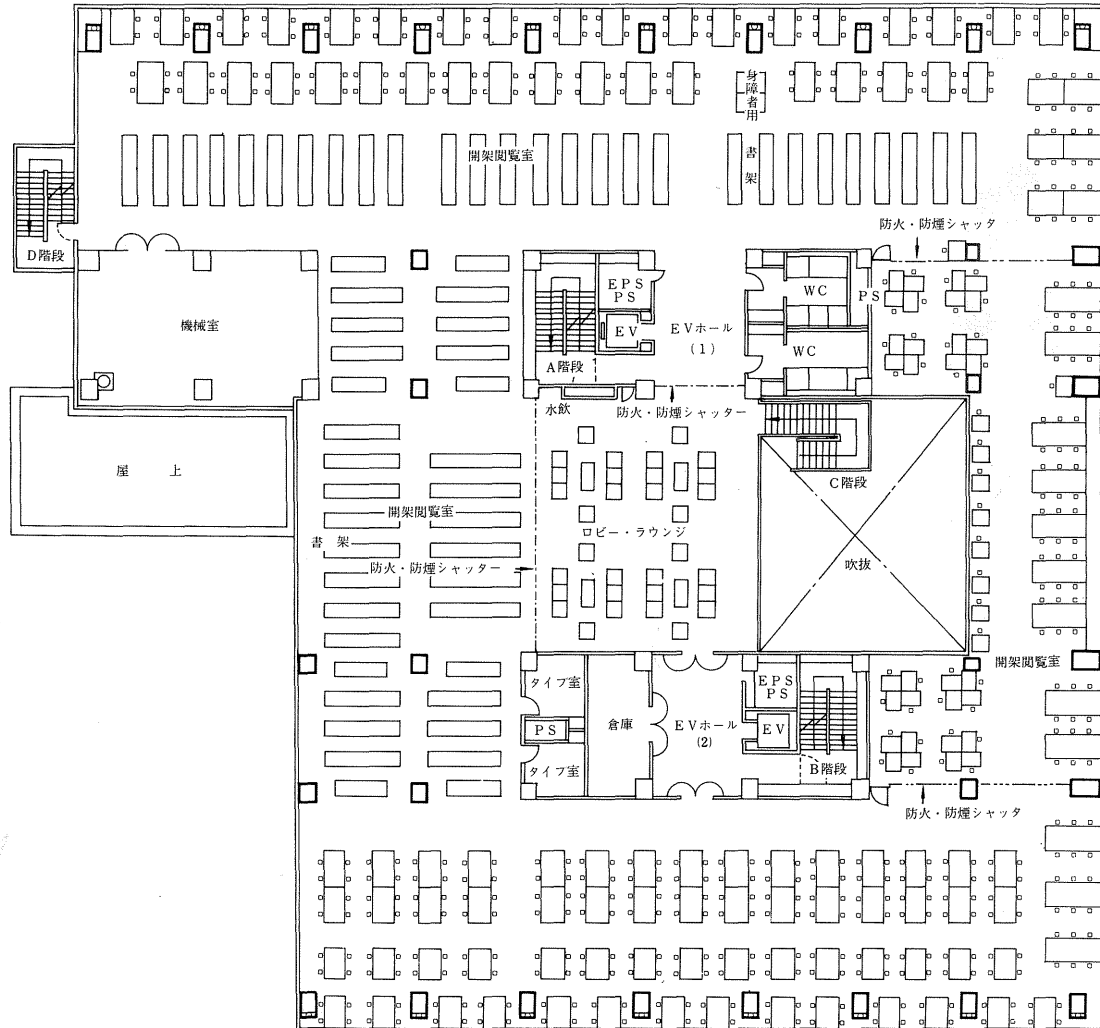


附近見取図・全体配置図 1 : 2400

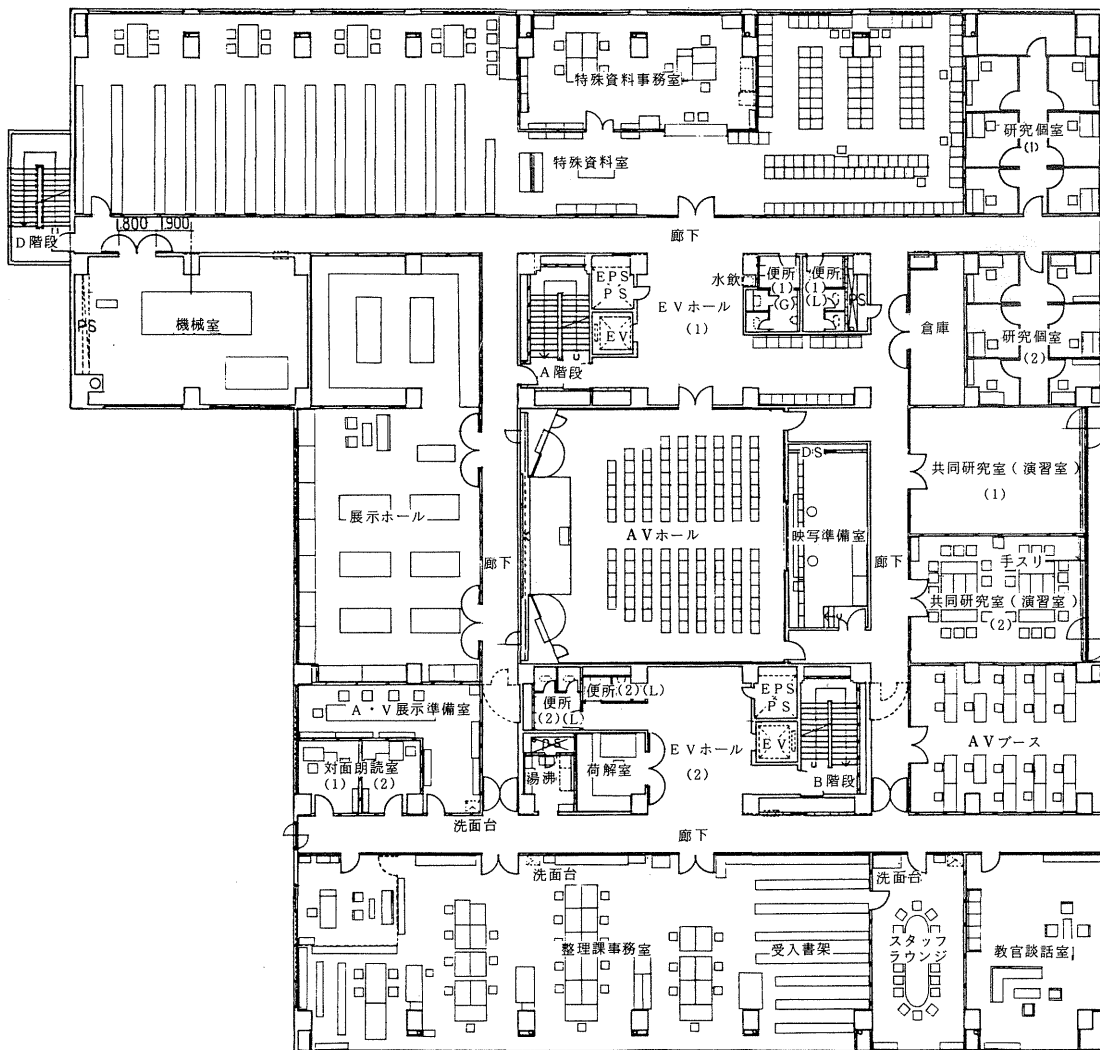
平面図



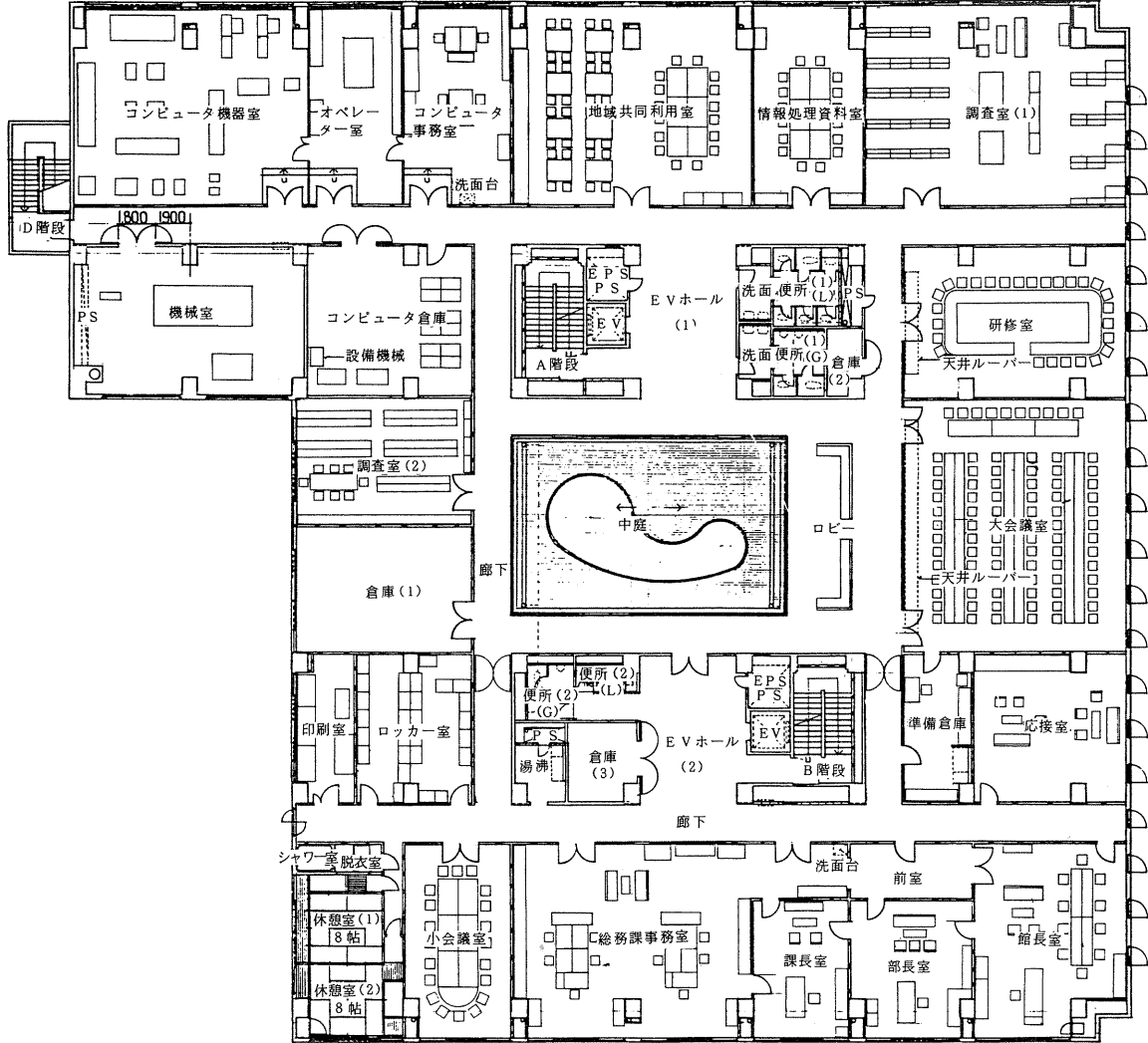
2階



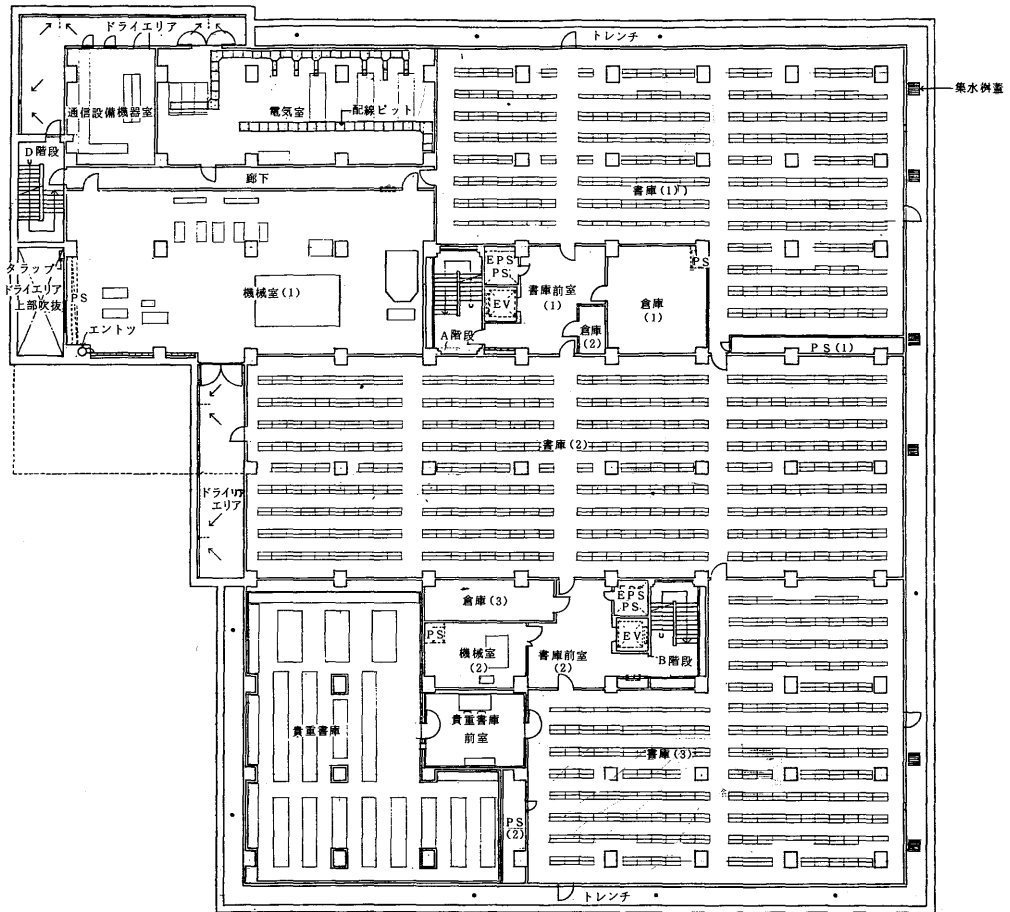
3階



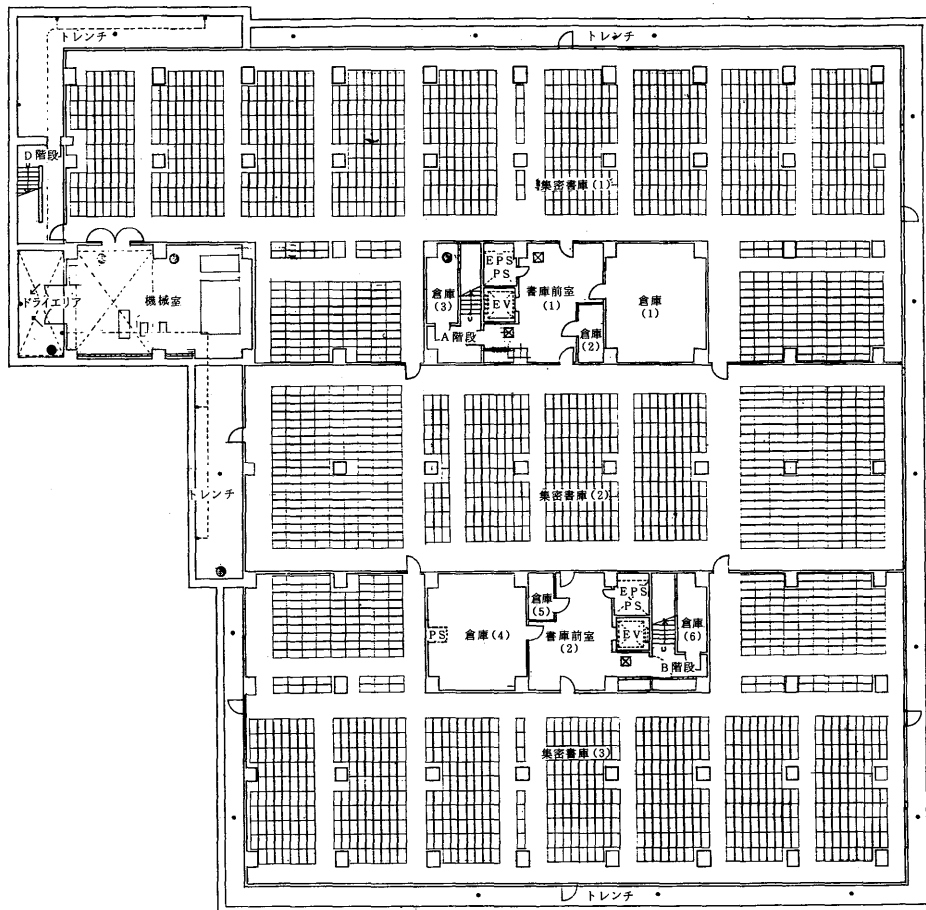
4階



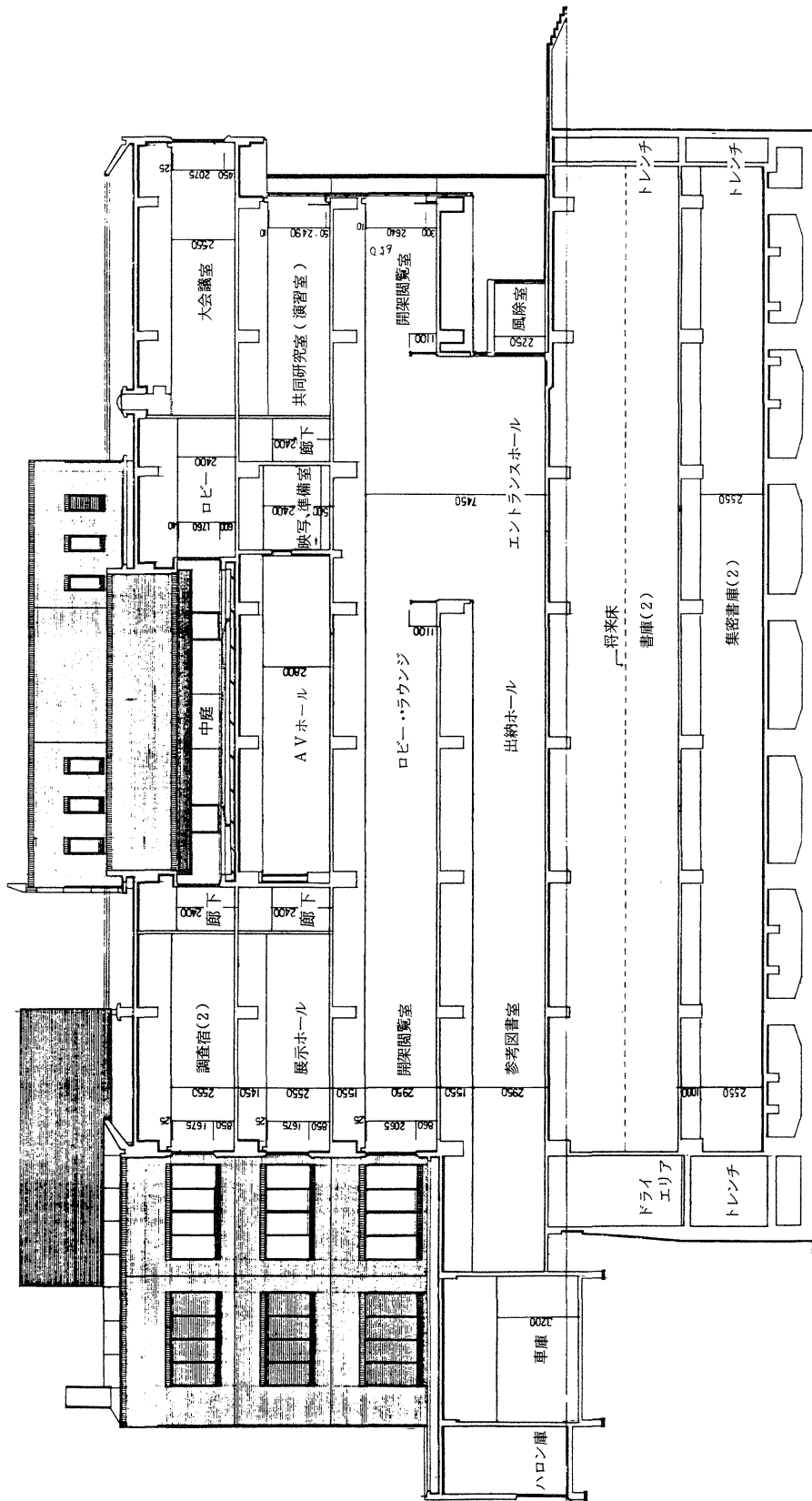
地下1階



地下2階



断面図



附属図書館工事概要

設 計 京都大学施設部
株式会社富家建築事務所
株式会社末松設備総合コンサルタント

監 理 京都大学施設部

工 期 着工 昭和56年12月26日
竣工 昭和58年10月20日

施 工 建 築 戸田建設株式会社
電 気 設 備 関東電気工事株式会社
空気調和衛生設備 新菱冷熱工業株式会社
通 信 設 備 東邦電気工業株式会社
エ レ ベ ー タ ー 日本エレベーター製造株式会社

構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造り (S.R.C)
地上4階 地下2階 塔屋1階

面 積 建築面積 2,477.86㎡
延床面積 14,011.25㎡
地下2階 2,353.21㎡
◇ 1階 2,353.21㎡
地上1階 2,319.29㎡
◇ 2階 2,168.70㎡
◇ 3階 2,297.98㎡
◇ 4階 2,262.09㎡
塔屋階 256.77㎡

仕上概要

外 装

壁 レンガタイル張り (フランス張り)
屋根勾配部 耐候性鋼板曲げ加工 酸化安定化処理
屋 根 合成高分子シート防水の上 耐磨耗性保護材吹付
建 具 アルミニウム製 (電解着色仕上)
カーテンウォール 耐候性鋼板曲げ加工 酸化安定化処理
鋼 製 建 具 グラファイト塗装

内 装（主要内部仕上）

室 名	床	壁	天 井
集 密 書 庫	合成樹脂塗り	合成樹脂エマルジョン ペイント仕上	不燃化粧石膏ボード張り
貴 重 書 庫	木軸下地の上 ブナフローリング張り	木軸下地米杉板 落とし込み	米杉板張り
エントランス ホ ー ル	カーペットタイル張り	レンガタイル張り	ロックウール吸音板張りの上 合成樹脂エマルジョンペイント 仕上
開 架 閱 覧 室	カーペットタイル張り	ゆず肌状模様吹付 クリヤー	ロックウール吸音板張りの上 合成樹脂エマルジョンペイント 仕上
A V ホ ー ル	カーペットタイル張り	有孔化粧天然木目 けい酸カルシュウム 板張り	ロックウール吸音板張りの上 合成樹脂エマルジョンペイント 仕上
大 会 議 室	カーペットタイル張り	化粧天然木目シート シート張り	ロックウール吸音板張りの上 合成樹脂エマルジョンペイント 仕上

外 構

正面玄関

<床>レンガタイル張り <軽天井>耐候性鋼板曲げ加工

酸化安定化処理底目地張り 身障者用スロープ

搬入用スロープ 植栽 自転車置場

主要設備

空気調和設備

方式

閲覧室
 事務室
 会議室
 資料室
 その他

天井埋込型ファンコイルユニット方式（処理外気送気）

AVホール 空冷式パッケージ型空調機全ダクト方式（単独系統）

電子計算機室 空冷式パッケージ型空調機方式

貴重書庫 空冷式パッケージ型空調機全ダクト方式（単独系統）

熱源

ガス直焚 2 重効用吸収式冷温水発生機 313RT 1 台

取出温度 温水55℃, 冷水 7℃

換気設備

地下 1, 2 階書庫(貴重書庫を除く。)は, 空調機で外気を温湿度処理し送気,
強制排気(小型除湿機52台併用)

給排水・ガス・消火設備 一式

電気設備

照明設備

1, 2 階閲覧室及び全館共用部分はマイクロコンピューターによる照明制御,
省電力型蛍光灯を採用

昇降機設備

利用者用エレベーター(乗用11人乗り 付加機能=車椅子対策及び視覚
障害者対策, 地震管制運転, 火災管制運転) 1 基
管理用エレベーター 1 基

通信・防災設備

通信設備

館内専用電子式自動電話交換機(96回線)

ハロンガス消火設備

防災設備

自動火災報知設備, 非常警報設備, ガス漏警報設備その他(複合受信機110回線)

拡声設備

自動入退館設備(IDカード・システム及びブックディテクション・システム)

電子計算機(FACOM V-830, 及び周辺機器, 昭和59年度新規にFACOM M-340を導入)

電動集密書架

総工費 2,677,500,000円

建築 2,030,550,000円

設備 646,950,000円

附属図書館の現況

開館時間

平日 午前9時—午後9時

土曜日 午前9時—午後5時

ただし、1月6日—1月10日、7月21日—8月4日

8月16日—9月10日の各期間は

平日 午前9時—午後5時

土曜日 午前9時—午後5時

休館日

日曜日、国民の祝日、本学創立記念日（6月18日）、4月1日—4月5日

8月5日—8月15日、12月25日—翌年1月5日 毎月末日（末日が日曜日に

あたる場合は、その前日）

主な利用対象者数（59.5.1）

学部学生 12,095名

大学院生 3,554名

教職員 5,681名

閲覧座席

開架閲覧室	参考図書室	雑誌閲覧室	自由閲覧室	研究個室
600席	70席	40席	100席	13席

新聞ラウンジ、貴重図書閲覧室、特殊資料室、共同研究室等は含まない。

蔵書数（59.5.1）

	図書(冊)	雑誌(種)
和書	2,253,128 (396,442)	21,897 (4,196)
洋書	2,005,934 (156,739)	24,508 (3,490)
合計	4,259,062 (553,181)	46,405 (7,686)

() 内は附属図書館

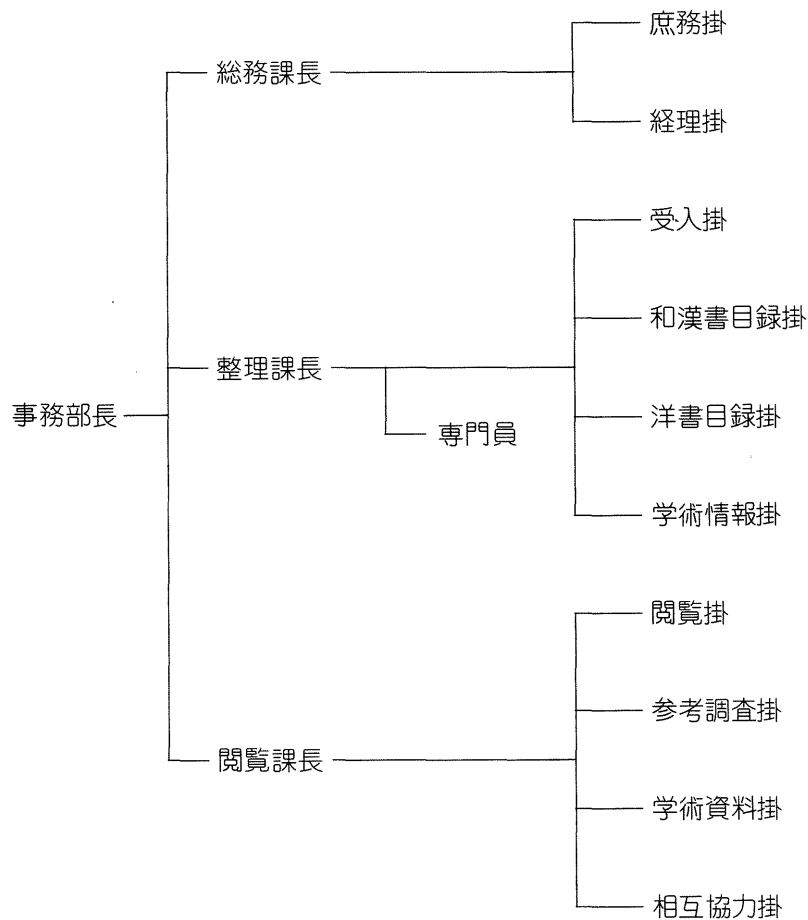
年間増加冊数（昭和58年度）

	全 学	附属図書館
和書	49,710	7,306
洋書	51,675	968
合計	101,385	8,274

書庫収容力

約105万冊 うち、バックナンバーセンター約40万冊

事務組織



職員数（60.4.1）

68名（非常勤職員を含む。）

定期刊行物

京都大学附属図書館報『静脩』1年4回発行

京都大学附属図書館

〒606 京都市左京区吉田本町
TEL (075) 751-2111

印刷 昭和堂印刷所

